



いつも当社のIR活動に対しまして、ご支援とご指導いただきまして、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、私から決算の概況について説明させていただきます。

当第3四半期決算説明会のトピックス(1/2)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

第3四半期実績

- 売上高は、直前四半期比▲13.4%の4,190億円。樹脂多層基板や高周波モジュール、コネクティビティモジュールがスマートフォン向けで減少したほか、コンデンサがコンピュータや通信向けで減少した。また、リチウムイオン二次電池がパワーツール向けで減少したこともあり、全体として減収となった。
- 営業利益は、直前四半期比▲27.3%の773億円。生産高の減少による操業度損が主な減益要因。
- モビリティ向けは堅調に推移したが、スマートフォンやPCなどの民生市場向けを中心に、想定以上の需要減があったことに加えて、パワーツール市場の減速もあり、業績予想比で売上高▲11.4%の未達。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

2

第3四半期の決算説明会のトピックスについてお話しいたします。

第3四半期の売上高は、直前四半期比▲13.4%の4,190億円になりました。

用途別では、スマートフォン向けやコンピュータ関連向けが減少しております。また、リチウムイオン二次電池がパワーツール向けで減少し、全体として減収となりました。

営業利益につきましては、操業度損が主な減益要因となり、▲27.3%の773億円となりました。

10月の業績予想で第3四半期の売上高の予想を出しておりましたが、それに対して▲11.4%の未達となりました。理由は、先ほど述べた内容と同様となりますので省略させていただきます。

当第3四半期決算説明会のトピックス(2/2)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

業績予想

9ヶ月累計実績及び第4四半期見通しを踏まえ、予想を修正。

売上・損益

- 売上高は、前回予想比▲7.7%の減収を計画。コンポーネント、デバイス・モジュールともに通信やコンピュータ向けで売上の減少を見込む。
- 営業利益は、前回予想比▲22.4%の減益を計画。生産高の減少による操業度損を見込む。

設備投資

- 一部設備部品の長納期化の継続により、前回予想比▲100億円の2,000億円に修正。

株主還元

- 年間配当金は1株あたり150円の予想を据え置き。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

3

9カ月累計の損益の結果を踏まえまして、今回業績予想を下方修正いたしました。売上高は前回予想比▲7.7%の減収を計画しております。

営業利益につきましても、生産高の減少に伴いまして前回予想比▲22.4%の減益を計画しております。

設備投資につきましては、一部設備部品の長納期化が継続しておりますので、前回予想比▲100億円の2,000億円に修正いたしました。

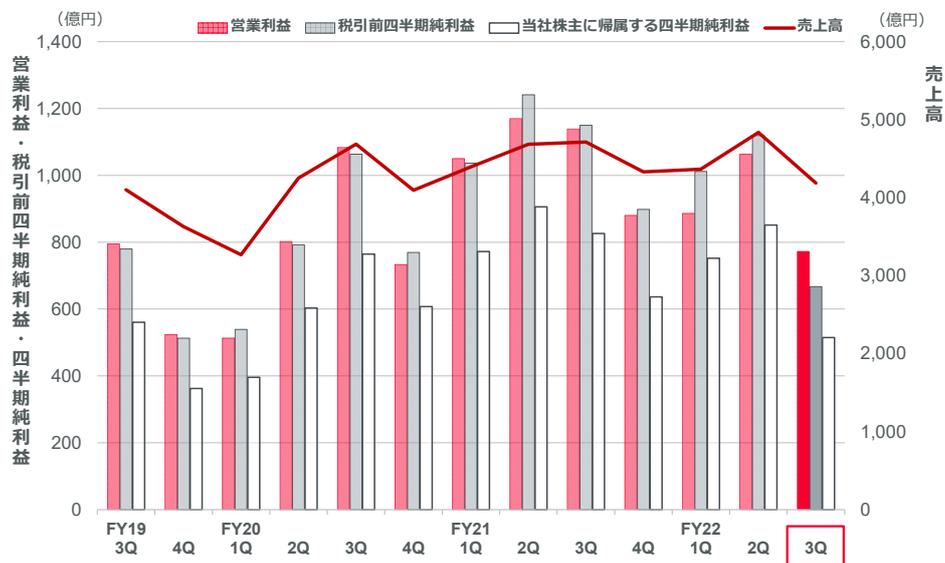
そのような中で、株主還元につきましては今期増配を計画しておりますが、その計画は据え置いております。

2022年度第3四半期 業績概要

2022年10月～2022年12月
第3四半期連結会計期間



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



業績の推移でございます。

通常ですと、第3四半期は第2四半期比で横ばい、あるいは若干上がる年が多いのですが、今回は後ほど説明させていただきますが、第3四半期売上高が落ち込み、それに伴って利益も減少する結果となりました。

	2021年度 第3四半期		2022年度 第2四半期		2022年度 第3四半期		前年同期比 22Q3/21Q3		直前四半期比 22Q3/22Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	4,714	100.0	4,836	100.0	4,190	100.0	▲524	▲11.1	▲646	▲13.4
営業利益	1,139	24.2	1,064	22.0	773	18.4	▲366	▲32.2	▲291	▲27.3
税引前当期純利益	1,150	24.4	1,120	23.2	667	15.9	▲483	▲42.0	▲453	▲40.4
当社株主に帰属する 当期純利益	826	17.5	852	17.6	515	12.3	▲312	▲37.7	▲337	▲39.6
為替 (円/USD)	113.71		138.38		141.64					

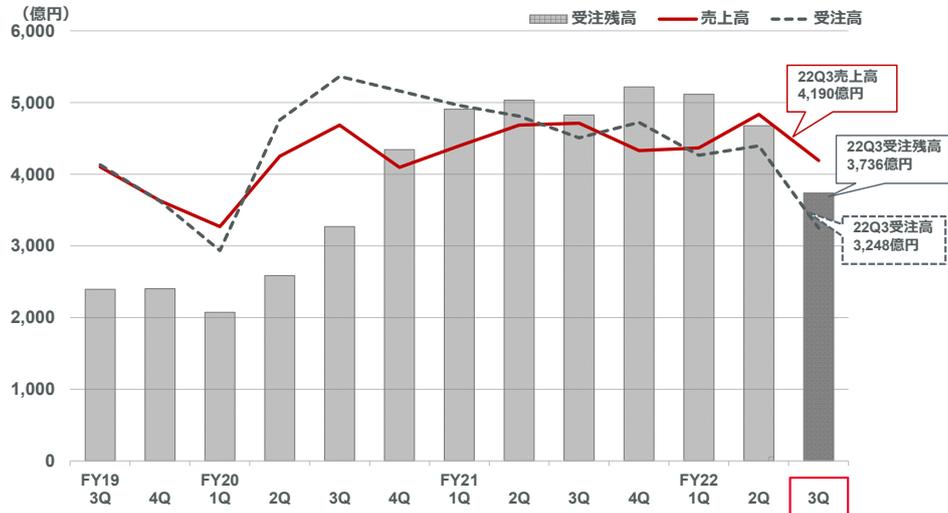
- 売上高は、直前四半期比で、モビリティ向けでコンデンサが増加したが、スマートフォン向けで樹脂多層基板や高周波モジュール、コネクティビティモジュールが減少したほか、パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が減少したことにより、全体として減収となった。
- 営業利益は、直前四半期比で、生産高の減少による操業度損の発生や一時費用(70億円)の計上により、減益となった。

業績の全体像です。

1点補足させていただきますと、直前四半期比での減益の理由として、生産高の減少による操業度損の発生と一時費用70億円の計上との記載があります。一時費用の内訳としましては、まず1点目は、得意先対応のための引当金を数十億円計上しております。それに加えて、環境汚染対策費用も追加計上しております。後者につきましては、この第3四半期に何か新しいことが起こったというわけではなく、常に30年先の対策費用を見積もっていきまして、当四半期において精度高く見積もり直した結果、追加の引当金の計上が必要となりました。

売上・受注・注残推移（四半期）

- ・ 直前四半期比で受注高は減少、BBレシオが1を下回る状況が継続。
- ・ 受注残の消化が進んだことに加え、急激な為替変動も影響し、期末受注残高は減少。
- ・ 第4四半期は、季節性もあり受注は減少する見込み。



(注) 受注高=売上高+当四半期受注残高-前四半期受注残高
 受注残高は、各四半期末日時点の為替レートに基づき算出しています。 ※対米ドル為替レート 22年9月末：144.81円、同12月末：132.70円

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

7

売上・受注・注残の推移です。

今回、QoQで受注高が大きく減少することになり、受注残高も減少しております。BBレシオにつきましては、第3四半期で0.78になりました。この受注残高につきましては、第3四半期末にかけて少し円高が進んだという影響も入っています。

事業別セグメント売上高

	2021年度 第3四半期		2022年度 第2四半期		2022年度 第3四半期		前年同期比 22Q3/21Q3		直前四半期比 22Q3/22Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	2,014	42.7	1,944	40.2	1,827	43.6	▲187	▲9.3	▲117	▲6.0
インダクタ・EMIフィルタ	511	10.8	483	10.0	434	10.3	▲77	▲15.1	▲49	▲10.2
高周波・通信	1,402	29.7	1,476	30.5	1,144	27.3	▲258	▲18.4	▲332	▲22.5
エネルギー・パワー	488	10.4	650	13.4	539	12.9	+51	+10.4	▲111	▲17.0
機能デバイス	263	5.6	249	5.2	221	5.3	▲42	▲16.0	▲28	▲11.1
その他	36	0.8	33	0.7	25	0.6	▲11	▲31.4	▲9	▲26.5
売上高計	4,714	100.0	4,836	100.0	4,190	100.0	▲524	▲11.1	▲646	▲13.4

事業別のセグメント売上高でございます。

前年同期比で、エネルギー・パワーでプラスになっていますが、その他は前年同期比および直前四半期比マイナスになっております。

コンデンサ (直前四半期比▲6.0%)	▲積層セラミックコンデンサ (MLCC) モビリティ向けで増加したが、コンピュータや通信向けで減少
インダクタ・EMIフィルタ (直前四半期比▲10.2%)	▲インダクタ・EMI除去フィルタ EMI除去フィルタがモビリティ向けで増加したが、インダクタがスマートフォンやコンピュータ向けで減少
高周波・通信 (直前四半期比▲22.5%)	▲樹脂多層基板・高周波モジュール・コネクティビティモジュール スマートフォン向けで減少
エネルギー・パワー (直前四半期比▲17.0%)	▲リチウムイオン二次電池 パワーツール向けで減少
機能デバイス (直前四半期比▲11.1%)	▲センサ モビリティ向けで増加したが、コンピュータ向けで減少

事業別の直前四半期比について少し説明を加えます。

まず、コンデンサは、モビリティ向けで為替の影響も少しありますが増加しました。一方でコンピュータ関連や通信向けで減少しました。

インダクタ・EMIフィルタにつきましても、モビリティ向けでは増加しましたが、民生市場向けでは減少しております。

高周波・通信につきましてもは直前四半期比で▲22.5%になりました。樹脂多層基板が例年であれば第3四半期に増加しますが、今回は第2四半期で取り込みが終わった影響もあります。また、市場もやや減退しているという中で、このような結果になりました。

エネルギー・パワーにつきましてもは、第2四半期まで好調でしたが、パワーツール向けで第3四半期落ち込むことになりました。

用途別売上高

	2021年度 第3四半期		2022年度 第2四半期		2022年度 第3四半期		前年同期比 22Q3/21Q3		直前四半期比 22Q3/22Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
通信	2,104	44.6	2,050	42.4	1,626	38.8	▲478	▲22.7	▲425	▲20.7
モビリティ	803	17.0	943	19.5	1,063	25.4	+260	+32.4	+120	+12.7
コンピュータ	751	16.0	652	13.5	507	12.1	▲244	▲32.4	▲145	▲22.2
家電	471	10.0	619	12.8	456	10.9	▲15	▲3.2	▲164	▲26.4
産業・その他	586	12.4	570	11.8	538	12.8	▲48	▲8.1	▲33	▲5.7
売上高計	4,714	100.0	4,836	100.0	4,190	100.0	▲524	▲11.1	▲646	▲13.4

(注) 当社推計値に基づいております。

用途別の売上高でございます。

モビリティ向けにつきましては前年同期比、直前四半期比でプラスになりましたが、その他は軒並みマイナスとなりました。

通信 (直前四半期比▲20.7%)	▲ スマートフォン向けで樹脂多層基板や高周波モジュール、コネクティブ ティモジュールが減少 ▲ 基地局向けでコンデンサが減少
モビリティ (直前四半期比+12.7%)	○ 半導体需給の緩和に伴う自動車向け部品需要の増加により、コンデンサが 増加
コンピュータ (直前四半期比▲22.2%)	▲ PC向けでコンデンサが減少 ▲ 周辺機器向けでコンデンサや機能デバイスが減少
家電 (直前四半期比▲26.4%)	▲ パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が減少 ▲ ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池やコンデンサが減少
産業・その他 (直前四半期比▲5.7%)	▲ ヘルスケアや産業機器向けで減少

(注) 当社推計値に基づいております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

11

事業別のセグメントでお話ししたと重複いたしますが、特徴的な点としましては、モビリティにおいてコンデンサが増加している点になります。

また、通信につきましては、スマホ向けに加えて基地局向けも振るいませんでした。

コンピュータにつきましても、PCに加えて周辺機器でも振るわなかったため減少、家電につきましてはパワーツール向けでリチウムイオン二次電池が減少しました。

セグメント情報

		2021年度 9カ月累計		2022年度 9カ月累計		増減	
		(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンポーネント	売上高	7,567	100.0	7,258	100.0	▲309	▲4.1
	営業利益	2,742	36.2	2,347	32.3	▲395	▲14.4
デバイス・ モジュール	売上高	6,233	100.0	6,124	100.0	▲108	▲1.7
	営業利益	633	10.2	391	6.4	▲242	▲38.2
その他	売上高	528	100.0	548	100.0	+21	+3.9
	営業利益	▲15	▲2.8	▲15	▲2.8	▲0	-
消去	売上高	▲532	-	▲538	-	▲6	-
連結	売上高	13,795	100.0	13,392	100.0	▲403	▲2.9
	営業利益	3,360	24.4	2,723	20.3	▲638	▲19.0

- ・ コンポーネント 円安による増益効果はあったものの、生産高の減少による操業度損の発生により減益。
- ・ デバイス・モジュール 表面波フィルタや機能デバイスの売上減少により、収益性が悪化したため減益。

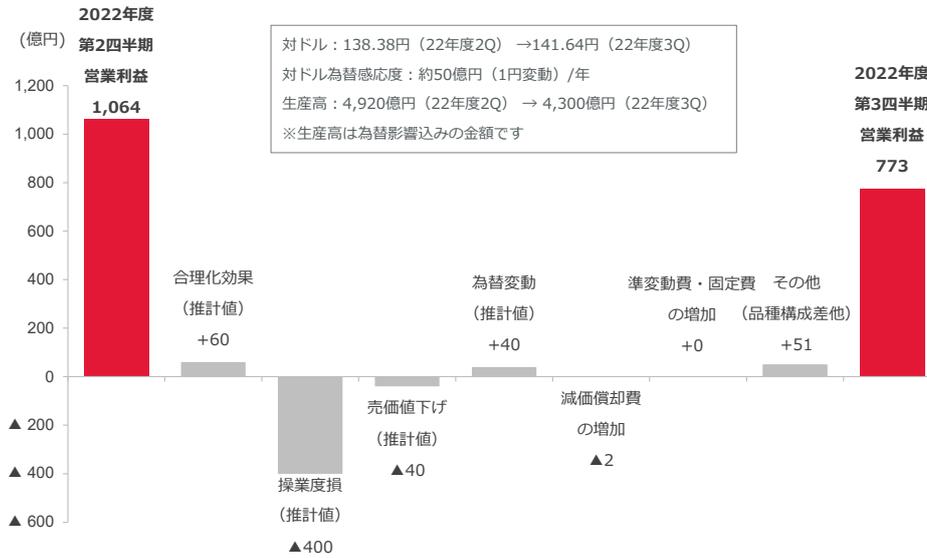
※今年度より、表示する利益区分を「事業利益」から「営業利益」に変更しております。

セグメント情報でございます。9カ月累計での前年比較を説明させていただきます。

コンポーネントにつきましては、操業度損の影響が大きく、減益となっております。また、先ほど申し上げました一時費用も入っております。

デバイス・モジュールにつきましては営業利益率が6%まで低下しました。主な要因は品種構成の変化です。昨年度に比べて、利益率の高い表面波フィルタが大きく落ち込んでいることが主な理由です。

利益変動要因 [2022年度第2四半期→2022年度第3四半期]



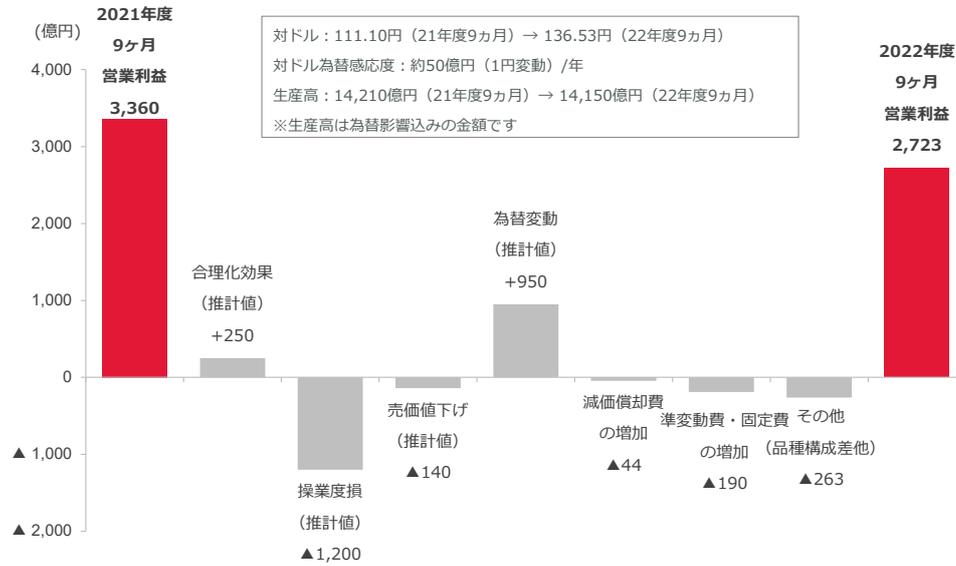
※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※準変動費・固定費の増減には、2022年度第3四半期に発生した一時費用の影響が含まれております。

第2四半期から第3四半期の利益の変動要因で、特徴的なのは操業度損が400億円のマイナス要因となっていることです。また、操業度が下がるため、準変動費・固定費は減少いたしますが、一方で先ほど申し上げましたような一時費用が入ったことによって、全体ではプラスマイナスゼロになりました。

品種構成につきましては、第2四半期に対してバッテリーの構成割合が減少したことも影響して、こちらはプラスの影響になっています。

利益変動要因 [2021年度9カ月累計→2022年度9カ月累計]



※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。
 ※準変動費・固定費の増減には、2022年度 第3四半期に発生した一時費用の影響が含まれております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

14

こちらは9カ月の累計です。準変動費・固定費について補足させていただきます。

まず生産減に伴って準変動費が減少しますが、一方で一時費用の発生や電力料金、人件費といったコストが増加しています。また、前期末に買収しましたEta Wireless社、Resonant社の費用が今期から計上されているといったことも影響しております。

その他につきましては、表面波フィルタの減少とバッテリーでの材料価格高騰の影響などによりマイナスとなりました。

キャッシュフロー

	2021年度 9か月累計 (億円)	2022年度 9か月累計 (億円)	増減 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	3,117	1,830	▲1,287
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,164	▲1,024	+140
財務活動によるキャッシュフロー	▲774	▲1,734	▲960
為替変動による影響	30	116	+86
現金及び同等物残高	5,287	4,309	▲978
フリーキャッシュフロー	1,954	807	▲1,147
固定資産の取得	▲1,152	▲1,430	▲279
減価償却費	1,156	1,200	+44

- 前年同期比で棚卸資産が増加したことや減益となったことから、営業活動によるキャッシュフローは減少。
- 自己株式の取得(800億円)により、財務活動によるキャッシュフローも減少。

キャッシュフローについては、営業活動によるキャッシュフローが棚卸の増加によって減少している点が特徴です。

財務活動によるキャッシュフローでは、自己株式の取得を今期累計で800億円実施している点が特徴です。

2022年度 業績予想
(2022年4月～2023年3月)



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2022年度 業績予想

	前回予想(22年10月)		2022年度 通期予想 (億円)	今回予想(23年2月)				2022年度 通期予想		前回予想比 増減	
	上期実績 (億円)	下期予想 (億円)		上期実績 (億円)	(%)	下期予想 (億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	9,202	8,998	18,200	9,202	100.0	7,598	100.0	16,800	100.0	▲1,400	▲7.7
営業利益	1,950	1,850	3,800	1,950	21.2	1,000	13.2	2,950	17.6	▲850	▲22.4
税引前当期純利益	2,132	1,858	3,990	2,132	23.2	898	11.8	3,030	18.0	▲960	▲24.1
当社株主に帰属する 当期純利益	1,604	1,366	2,970	1,604	17.4	656	8.6	2,260	13.5	▲710	▲23.9
ROIC(税引前)	18.7							14.7			
為替(円/USD)	136.99			133.98		134.32		134.15			

- ・ スマートフォンやPCの市場低迷と在庫調整の長期化などにより、通信及びコンピュータ向けの部品需要が減少し、前回予想比で売上高を下方修正。
- ・ 生産高減少に伴う操業度損の発生により、前回予想比で営業利益も下方修正。
- ・ 第4四半期の前提為替レートを、前回予想の1ドル=140円から127円に変更。

こちらが業績予想です。

今回、売上高および営業利益を大幅に下方修正することになりました。売上高は1兆6,800億円、営業利益は2,950億円を計画しております。

次のページで利益増減要因について説明させていただきますが、棚卸について補足しますと、第3四半期でやや棚卸資産が当社の適正水準を上回るころまで来ております。それに対して第4四半期は少し消化する予定をしております。

全社でおおよそ3カ月分ぐらいの在庫を持っていますが、コンデンサがそれよりもやや多め、あるいは先ほどのパワーツール市場の変調もありまして、バッテリーもやや多めに持っているといった点がリスク要因になっています。

一方で、棚卸引当金につきましては、滞留の期間や月齢等から判断して、第3四半期までも積んでおります。第4四半期でも棚卸資産に対する引当金は一定織り込んでおります。

	10月時点の業績予想前提	2月時点の現状認識
売上	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやPCの販売不振によるセット台数の大幅な減少 ・ミドル・ローエンドスマートフォン向けの需要回復は次期以降を見込む ・為替レートが円安に進行 ・ハイエンドスマートフォンは底堅く推移 ・自動車の生産制約が想定より長期化、顧客によるBCP在庫の取り崩しは無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイエンドスマートフォン及び中華圏スマートフォンのセット台数減少 ・ローエンドスマートフォンのセット台数増加等のモデルミックスの変化 ・PC販売不振と周辺機器市場の需要停滞 ・為替相場の不安定な動きが継続 ・半導体需給の緩和による自動車向け部品需要の緩やかな回復 ・顧客のBCP部品在庫の保有継続
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・需要減を受けて、生産高を引き下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生市場向けの需要減を踏まえた、生産高のさらなる引き下げ
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・材料価格やエネルギー価格の上昇継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料価格やエネルギー価格の高止まり

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

18

環境認識について、大きく変化した点は民生市場の悪化です。その中でもハイエンドのスマートフォンの減少や中華圏スマホにおいてローエンドモデルが増加することによるモデルミックスの変化、コンピュータ関連市場の需要低迷などが変化点です。また、為替も円高に進んでおります。

自動車向けにつきましては、回復しつつありますが、まだ回復が緩やかです。また顧客のBCP部品在庫の取り崩しは起こらないと考えております。

生産面や費用面の変化につきましては記載のとおりでございます。

	2021年度 実績	2022年度 前回予想(10月)	2022年度 今回予想(2月)	増減	
				前年度比	前回予想比
スマートフォン	13.6 億台	10.9 億台	10.7 億台	▲21%	▲1%
内 5G端末	5.6 億台	6.1 億台	5.9 億台	+5%	▲3%
PC	5.0 億台	4.4 億台	4.2 億台	▲16%	▲3%
自動車	7,600 万台	8,200 万台	8,200 万台	+8%	横這い
内 xEV	1,600 万台	2,400 万台	2,400 万台	1.5倍	横這い

(注) 自動車は生産台数ベース

- スマートフォン** グローバルで進行するインフレや中国ロックダウン等の影響により、主にハイエンド端末は減少するものの、ローエンド端末は増加を見込むことから、全体の台数見通しとしては、前回予想から微減。
- PC** 市況感の悪化を背景に、主にハイエンドタブレットPCの台数見通しを前回予想から下方修正。
- 自動車** 地域別では台数想定に増減は生じているものの、全体の台数見通しとしては、前回予想を据え置き。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

19

部品の需要予測です。

スマートフォンにつきましては、前回予想比▲1%の10.7億台を見込んでおります。先ほど申し上げましたように、内訳としてはハイエンドのスマホ、中華圏スマホのモデルミックスの変化の影響を受けていると考えております。

PCは前回予想比で▲3%を見込んでおります。主にハイエンドのタブレットPCの台数見通しを今回修正しております。

自動車につきましては、地域別に変化はありますが、全体としては前回の予想通りです。

事業別セグメント売上予想

	前回予想(10月)	今回予想(2月)	
	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 第4四半期予想 (前四半期比)
コンデンサ	横這い	▲6%程度	▲11%程度
インダクタ・EMIフィルタ	▲3%程度	▲10%程度	▲15%程度
コンポーネント	▲1%程度	▲7%程度	▲12%程度
高周波・通信	▲8%程度	▲16%程度	▲34%程度
エナジー・パワー	+36%程度	+18%程度	▲20%程度
機能デバイス	▲5%程度	▲14%程度	▲12%程度
デバイス・モジュール	+2%程度	▲8%程度	▲27%程度
売上高合計	横這い	▲7%	▲19%

事業別のセグメントは、基本的に前回予想から今回予想にかけて、どの事業セグメントも下方修正しています。

用途別売上予想

	前回予想(10月)	今回予想(2月)	
	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 第4四半期予想 (前四半期比)
通信	▲8%程度	▲16%程度	▲25%程度
モビリティ	+20%程度	+16%程度	▲9%程度
コンピュータ	▲11%程度	▲24%程度	▲17%程度
家電	+24%程度	+7%程度	▲19%程度
産業・その他	▲4%程度	▲4%程度	▲20%程度
売上高計	横這い	▲7%	▲19%

(注) 当社推計値に基づいております。

こちらも全て下方修正はしていますが、モビリティにつきましては下方修正の幅が小さくなっています。自動車の台数前提は見直しておりませんが、円高影響により引き下げております。



※操業度損益は売値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※準変動費・固定費の増減には、2022年度 第3四半期に発生した一時費用の影響が含まれております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

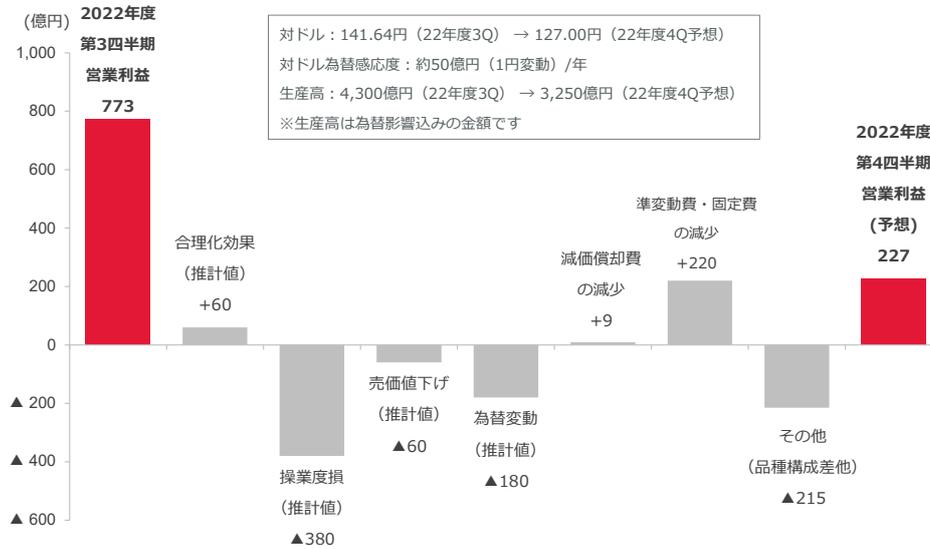
22

10月予想と2月予想の変化点です。

主な減少要因は、操業度損や円高による影響です。

品種構成差につきましては、操業度が下がりますので、バッテリーの材料高騰影響の縮小や棚卸資産の減少による限界利益率の改善等を見込んでおります。

利益変動要因 [2022年度第3四半期→2022年度第4四半期予想]



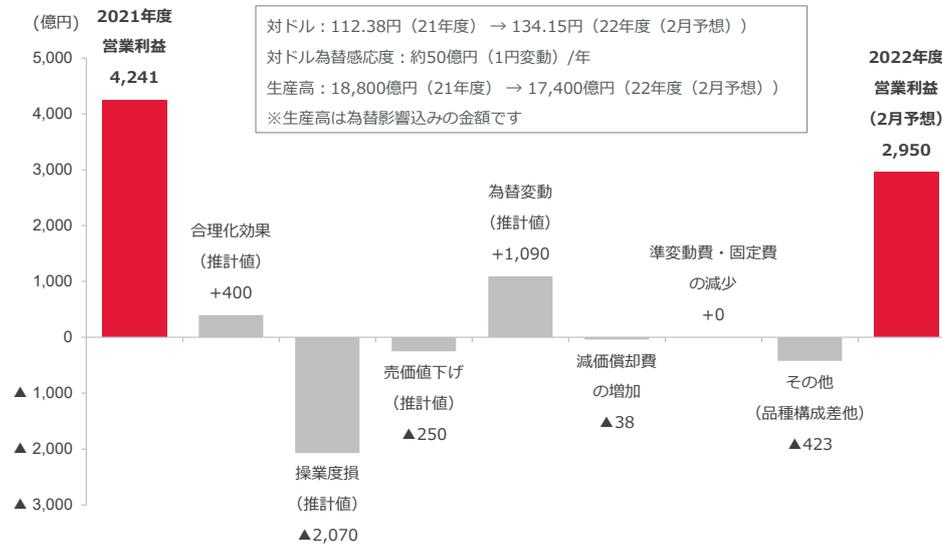
※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※準変動費・固定費の増減には、2022年度 第3四半期に発生した一時費用の影響が含まれております。

第3四半期から第4四半期の利益増減分析です。

一番大きいのは操業度損の拡大になります。また、為替もQoQで円高に進むことを予想しておりますので減益要因と捉えております。その他品種構成差も個別製品の限界利益率の低下等によりマイナスを見込んでおります。

利益変動要因 [2021年度通期実績→2022年度通期予想(2月)]



※操作度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※準変動費・固定費の増減には、2022年度 第3四半期に発生した一時費用の影響が含まれております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

24

昨年度の通期実績と今回の最新予想の比較になります。操作度のマイナスが大きく発生しますが、為替は円安に進みましたので増益要因になります。

準変動費・固定費の増減理由は、先ほど申しあげました9カ月累計と同じ要因になります。

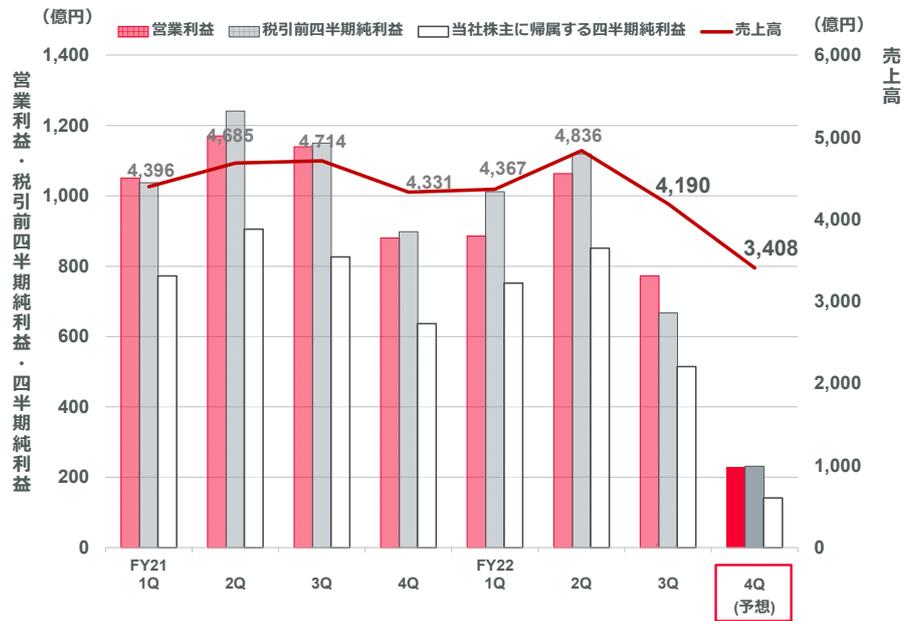
業績予想の前提

	2022年度 上期実績	2022年度 下期予想	2022年度 通期予想
減価償却費	798 億円	802 億円	1,600 億円
研究開発費	622 億円	568 億円	1,190 億円
設備投資額	837 億円	1,163 億円	2,000 億円
為替レート(USD)	133.98 円/USD	134.32 円/USD	134.15 円/USD

【対ドル為替感応度(1円変動/年)】
 売上 2022年度：約100億円
 営業利益 2022年度：約50億円

第4四半期の為替レートにつきましては127円を想定しております。為替感応度につきましては、10月に発表したものと同じでございます。

業績推移（四半期）



そのような結果の中で四半期別に推移を見るとこのような結果で、第4四半期の業績予想は売上高、それから利益ベースとしても、ここ数年の中ではかなり低い水準になっております。

配当

- 2022年度（2023年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間150円
（中間配当75円／期末配当75円）
※年間配当を前年度比20円増配

- 2021年度（2022年3月期）の配当
1株当たり年間130円
（中間配当60円／期末配当70円）

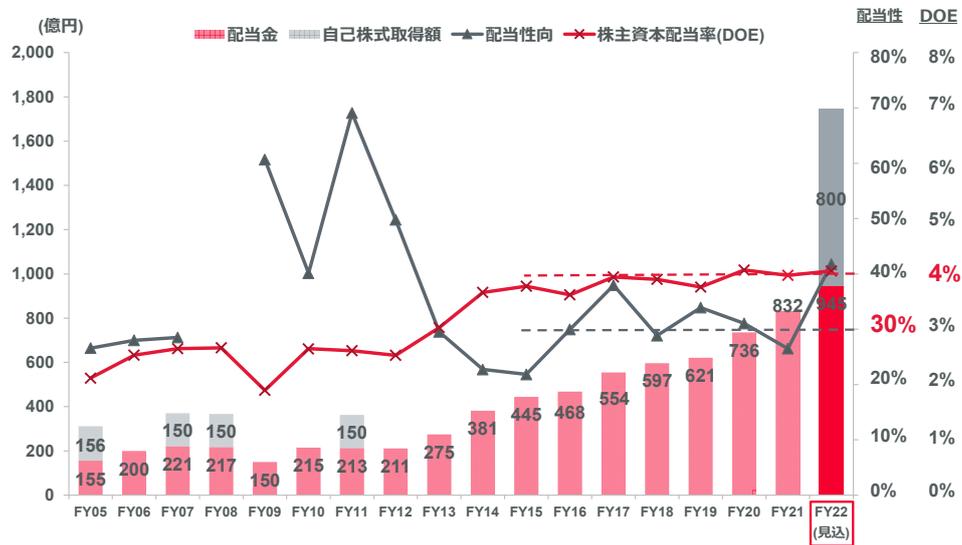
※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります。

最後に配当等についてお話しいたします。

冒頭に申しあげました通り、当初の増配予想から方針の見直しは行っておりません。

株主還元推移

- 配当 配当の安定的な増加を基本方針としており、中期的に配当性向30%程度を目安にDOE4%以上を実現
- 自己株式取得 株主還元的手段として、資本効率の改善を目的に適時実施



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

28

株主還元方針として、DOE4%、配当性向30%を掲げております。業績が下がる中でも、今回の配当計画については据え置きます。

私からの説明は以上になります。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you



補足

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

補足

財務データ(1/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

	2019年度		2020年度				2021年度				2022年度		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	4,102	3,629	3,268	4,252	4,686	4,095	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836	4,190
営業利益	795	524	513	802	1,084	733	1,051	1,170	1,139	880	886	1,064	773
税引前四半期純利益	780	513	539	792	1,063	769	1,037	1,241	1,150	898	1,012	1,120	667
当社株主に帰属する 四半期純利益	561	362	396	603	765	607	772	906	826	637	752	852	515
設備投資	814	854	402	438	489	639	426	321	334	447	386	451	542
減価償却費	357	364	340	359	357	375	373	387	396	400	398	401	402
研究開発費	247	264	248	262	244	263	270	272	282	289	307	315	303
対ドルレート(円)	108.76	108.97	107.62	106.22	104.51	105.90	109.49	110.11	113.71	116.21	129.57	138.38	141.64

財務データ(2/3)

(億円)

	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
事業別 セグメント 売上高	コンデンサ	1,900	2,034	2,014	1,938	2,021	1,944	1,827
	インダクタ・EMIフィルタ	493	519	511	435	469	483	434
	コンポーネント 計	2,393	2,552	2,525	2,373	2,490	2,427	2,261
	高周波・通信	1,283	1,374	1,402	1,224	1,084	1,476	1,144
	エナジー・パワー	426	453	488	437	513	650	539
	機能デバイス	267	277	263	256	248	249	221
デバイス・モジュール 計	1,976	2,103	2,153	1,918	1,845	2,375	1,904	
その他	26	30	36	40	31	33	25	
売上高計	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836	4,190	
用途別 売上高	通信	1,857	2,071	2,104	1,761	1,692	2,050	1,626
	モビリティ	827	821	803	912	919	943	1,063
	コンピュータ	746	770	751	707	682	652	507
	家電	442	483	471	437	513	619	456
	産業・その他	524	541	586	513	561	570	538
売上高計	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836	4,190	

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

33

補足

財務データ(3/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

(億円)

		2021年度				2022年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
コンポーネント	売上高	2,422	2,585	2,559	2,415	2,520	2,452	2,286
	営業利益	863	943	936	813	868	810	669
デバイス・モジュール	売上高	1,976	2,103	2,153	1,918	1,845	2,375	1,904
	営業利益	189	236	208	64	16	261	114
その他	売上高	175	178	175	184	202	165	181
	営業利益	▲1	▲9	▲5	3	2	▲7	▲10
消去	売上高	▲177	▲182	▲173	▲186	▲200	▲157	▲181
連結	売上高	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836	4,190
	営業利益	1,051	1,170	1,139	880	886	1,064	773



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS